

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間			2024年12月3日～2024年1月5日																				
注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	ニュース種別							イベント	組織設立・再編	感染症状況	リンク1	リンク2	
											取組	資金提供	その他疾患	外部から当該機関へ	当該機関	支援対象	重点感染症						その他疾患
	1	2024/12/3	HERA	EU、共同調達、COVID-19、レムデシビル、EU Therapeutics Strategy	HERA signs joint procurement framework contract for COVID-19 treatment	HERAがCOVID-19治療薬 Veklury(レムデシビル)の供給に関する共同調達枠組み契約をギリアド社と締結	2024年12月2日、HERAは、COVID-19治療薬Veklury(レムデシビル)の供給に関する共同調達枠組み契約をギリアド社と締結した。今回の契約は、2024年1月に期限を迎えた前回の契約に続き、3回目の契約となる。共同調達にはEU/EEA加盟国13ヶ国が参加しており、最大225万本のバイアルを調達する。COVID-19パンデミックの発生以来、欧州委員会はEU Therapeutics Strategyに基づき欧州の患者が医療機器を利用したり、治療を受けられるように取り組んでいる。HERAは加盟国と綿密に連携しながら、引き続き共同調達の優先事項を特定し実施する。	コロナウイルス感染症	●		●		●									リンク	
	2	2024/12/4	GloPID-R	協調融資、将来のパンデミック、GRIPP	GloPID-R Launches Coordinated Funding Mechanism to Strengthen Global Pandemic Preparedness, Global Research Improving Pandemic Preparedness (GRIPP)	GloPID-Rがパンデミックへの備えと対応に向けた取組みを強化するために、Global Research Improving Pandemic Preparedness (GRIPP)と呼ばれる協調融資のメカニズムを構築することを発表	GloPID-Rは、2024年12月3-4日にジュネーブで開催されたWHO総会において、パンデミックへの備えと対応に向けた取組みを強化するためにGlobal Research Improving Pandemic Preparedness (GRIPP)と呼ばれる協調融資メカニズムを発表した。このイニシアティブは、世界中のファンディング機関の連携を強化し、将来的なアウトブレイクや健康危機に対する研究開発面の対応を改善することを目的とする。GRIPPの最初の募集は2025年初旬に行われ、低中所得国における臨床研究のエコシステム強化に重点を置く。	感染症全般	●		●		●	●								リンク	
	3	2024/12/5	BARDA	多重迅速診断法、マルチプレックス、マラリア、エボラ出血熱、オルソエボラウイルス、Thrixen	BARDA supports development of multiplex, rapid, point-of-care diagnostic that distinguishes ebolaviruses from malaria	BARDAがThrixen社と共同でエボラ出血熱とマラリアを区別可能なpoint-of-careの多重迅速診断法の開発を推進	BARDAは、Thrixen社(シンガポール)と共同でエボラウイルスとマラリアを区別可能な、臨床現場で利用する(point-of-care)多重迅速診断法の早期開発に取り組んでいる。今回開発されるMultiplex PoC Diagnostics Platformは、複雑なサンプル処理を必要とせずに、指先から採血したサンプルを10分間以内に、オルソエボラウイルス(ザイール、スーダン型)とマラリアを識別できるように設計する。システムはバッテリー駆動式の小型・可搬式の装置であり、医療資源が限られた環境での使用に適している。BARDAはオルソエボラウイルス、Thrixen社はマラリアの検出方法の開発に対してそれぞれ資金を拠出する。この取組みは、BARDAの2022-2026戦略計画の目標に沿って行われるもので、同計画ではエボラ出血熱などの緊急事態において社会のすべての構成員を守ることを重視している。	マラリア、エボラ出血熱	●		●	●										リンク	
	4	2024/12/5	WHO	結核、結核検査、抗菌薬感受性、事前承認、核酸増幅法、多剤耐性	WHO announces first prequalification of a tuberculosis diagnostic test	WHOは、結核に対する初めての診断・抗菌薬感受性試験用検査キットとしてXpert MTB/RIF Ultraを事前承認	WHOは、結核に対する初めての診断・抗菌薬感受性試験用の検査キットとしてXpert MTB/RIF Ultraを事前承認したことを発表した。本システムは、GeneXpert Instrument System用に開発され、核酸増幅法を用いて結核の原因となるMycobacterium tuberculosisの核酸を喀痰から数時間以内に検出するとともに、多剤耐性結核菌の主要指標であるリファンピシン耐性に関連する遺伝子変異を同定する。スクリーニングで肺結核陽性と診断された患者のうち、まだ抗結核薬による治療を受けていない患者や過去6ヶ月間に3日未満の治療しか受けていない患者を対象としている。WHOは、品質が保証された結核検査へのアクセス改善に取り組んでおり、各国の診断オプションが拡大している。現在さらに7件の結核検査の評価を行っている。	結核			●			●								リンク	
	5	2024/12/6	NIH, NIAID	インフルエンザ、H5N1、HPAI、HAタンパク質、Q226L、ヒト型細胞受容体	Single mutation in H5N1 influenza surface protein could enable easier human infection	NIHの助成を受けて行われた研究により、高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1の表面タンパク質の突然変異によりヒト間での感染が容易に広がる可能性がある	NIHの助成を受けて行われた研究により、高病原性鳥インフルエンザウイルス(HPAI)H5N1の表面にあるタンパク質に1つの変異が生じるとヒト間での感染が容易に広がる可能性があることが明らかになった。この研究はスクリプス研究所によって実施され、Science誌に発表された。米国の農場でウシから分離されたH5N1ウイルスは、ヒトの間で感染力が強いとは報告されていない。研究では、ウイルスのHAタンパク質に変異を導入し、ヒト型細胞受容体との結合に与える影響を調べた。その結果、1個のアミノ酸置換(Q226L)により、ヒト型受容体との結合能力が高まることが判明した。この結果は、Q226Lの変異のみでパンデミックが生じることを意味するものではなく、ウイルスがヒト-ヒト間で伝播するためには他の変異も必要になると考えられる。今回の研究結果は、H5N1のゲノムサーベイランスを継続的な取り組みの重要性を強調している。	インフルエンザ				●	●									リンク	リンク

★	11	2024/12/11	CEPI	MANGO、ウイルス様粒子、VLP、迅速製造プラットフォーム、無細胞発現	Transatlantic scientists to transition traditional vaccine development onto rapid-response platform for faster outbreak control	CEPIの助成を受けて、英国、カナダ、ブラジルの研究チームがワクチン製造を加速化するために、ウイルス様粒子(VLP)の迅速製造プラットフォームの開発を実施	CEPIは、英国、カナダ、ブラジルの研究チームが実施するウイルス様粒子(VLP)の迅速製造プラットフォームの研究開発に216万ポンド(280万米ドル)を拠出することを発表した。プロジェクトでは、カナダ・トロント大学が開発したMANGO (Manufacturing on the go) 装置のproof-of-concept 研究を行う。MANGO装置は、無細胞発現という技術を利用してVLPを製造することから、生細胞を利用するVLP製造に比べてワクチンの開発期間を数ヶ月単位で短縮でき、VLPの実際の生産プロセスも7〜9日を1日へと劇的に短縮できる可能性があるとともに、開発費用も100万ポンド以上削減できる。期間の短縮は、発見からわずか100日で新しいワクチンを開発してDisease Xの脅威に対応するというCEPIの目標を直接的に支援できる可能性がある。プロジェクト全体は、英国カタパルト・ネットワークのCPI(Center for Process Innovation)によって推進される。	感染症全般	●		●	●	●	●							リンク	
	12	2024/12/11	WHO	マラリア、世界マラリア報告書、感染状況	Reinvigorated global efforts needed to curb rising malaria threat	WHOが世界マラリア報告書の最新版を公表し、マラリアは依然として深刻な世界的な健康上の脅威であるにも関わらず、マラリア撲滅に向けた投資が目標を下回り、取組み強化が必要なことを指摘	WHOは世界マラリア報告書2024(World Malaria Report 2024)を公表した。それによれば、2023年の世界全体のマラリアの患者数は2億6,300万人、死亡者数は59万7,000件人と推定され、2022年比で患者数は1,100万人の増加、死亡者数は横ばいであった。マラリアは依然として深刻で世界的な健康上の脅威である。死亡者の約95%はアフリカ地域である。この地域では依然として、マラリアの予防、発見、治療に必要なサービスを利用できない状況にある。現在、44ヶ国と1つの地域がマラリア清浄地域と認定されており、さらに多くの国々が着実にその目標に向かって進んでいる。17ヶ国ではマラリアワクチンの小児定期接種が行われている。しかし、世界全体のマラリア対策投資は40億米ドルと推計され、Global technology strategyで設定された83億米ドルの目標を大きく下回っている。より包括的で効果的な対策とさらなる投資が求められている。	マラリア						●						●	リンク	
	13	2024/12/12	CEPI	東アフリカ、ケニア、タンザニア、チクングニア熱、ACHIEVE、疾病負担	Scientists launch largest-ever study tracking chikungunya burden in East Africa	CEPIの助成を受けて、英国オックスフォード大学、ケニア、タンザニアの研究グループが東アフリカにおけるチクングニア熱の疾病負担に関する過去最大規模の研究を開始	英国オックスフォード大学、ケニア、タンザニアの研究グループが、CEPIから1,030万米ドル(790万英ポンド)の助成を受けて、東アフリカにおけるチクングニア熱の疾病負担に関する過去最大規模の研究を実施する。この研究は、ACHIEVE (Accelerating CHikungunya burden Estimation to inform Vaccine Evaluation) studyと呼ばれ、2025年春から3年間、ケニアとタンザニアの10カ所の病院を拠点に、子供と成人におけるチクングニア熱患者の発生状況を調査する。チクングニア熱に対するワクチンは、既に米国、カナダ、EUで承認されているが、このプロジェクトは、流行地域でのワクチン接種に向けた重要なデータも提供する。研究グループは、妊娠女性のチクングニア熱流行状況、チクングニア熱に関連する経済的負担、チクングニア熱ウイルスの多様性についても調査する予定である。	NTD			●	●		●						●	リンク	
	14	2024/12/13	GloPID-R	CORCイニシアティブ、将来的なパンデミック	GloPID-R and CORC Cooperate to Strengthen Pandemic Preparedness and Response	GloPID-RとWHOが、WHOの Collaborative Open Research Consortium (CORC) イニシアティブを通じて、世界的なパンデミックへの備えと対応に向けた取組みを強化することを合意	GloPID-RとWHOが、WHOの Collaborative Open Research Consortium (CORC) イニシアティブを通じて、世界的なパンデミックへの備えと対応に向けた取組みを強化することを合意 2024年12月3-4日にジュネーブのWHO本部で開催されたGloPID-R総会の公開セッションにおいて、CORCイニシアティブのミッションと世界的な取組みが強調された。CORCイニシアティブでは、WHO Collaborating Centresの支援のもと、特定の病原体ファミリーに焦点を当てた10の研究開発コンソーシアムが設置されている。本セッションを通じて、GloPID-Rのパンデミックへの備えと迅速な対応に重点を置く活動とCORCの目標が一致していることが認識され、GloPID-RのメンバーはCORCイニシアティブと継続的に対話を行うことに合意した。両者の連携により、病原体Xを含む新興病原体への迅速な対応が可能になると期待される。	感染症全般	●		●										リンク	
★	15	2024/12/17	CEPI	GVDN、南アフリカ、ガーナ、ケニア、ワクチンの安全性評価	Establishing vaccine safety benchmarking in Africa for African vaccines	CEPIが、アフリカの人々におけるワクチン有害事象に関する研究コンソーシアムに990万米ドルを助成	CEPIは、「Background Rates of Adverse Events for Vaccine Evaluation in Africa」プロジェクトに最大990万米ドルを助成する。このプロジェクトは、オークランド大学内のAuckland UniServices Limitedを拠点とするGlobal Vaccine Data Network (GVDN)によって実施される。研究には、南アフリカ、ガーナ、ケニア等の研究機関が参加し、アフリカの人々におけるギラン・バレー症候群や感音性難聴などの有病率を調査する(医療介入なし)。アフリカにおけるワクチン有害事象の解析は、先進国のデータをもとに行われてきたが、アフリカの人々は一部の疾患やワクチンに対して異なる反応を示すことが知られている。本プロジェクトにより、アフリカにおけるワクチン安全性評価のベンチマークが確立されると期待される。	感染症全般	●		●		●	●							リンク	

★		16	2024/12/19	IVI	ラッサ熱ワクチン、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院のガンビア医学研究所 (MRCG)、西アフリカ、ARC-WA、臨床試験、CEPI100日ミッション、アフリカCDC、WAHO	Advancing research capacity and pandemic preparedness in West Africa	IVIとロンドン大学が主導する Advancing Research Capacity in West Africa (ARC-WA)プロジェクトにおいてラッサ熱を中心とした感染症対策の研究開発を推進	国際ワクチン研究所 (IVI)とロンドン大学衛生熱帯医学大学院のガンビア医学研究所(MRCG)は、西アフリカでAdvancing Research Capacity in West Africa (ARC-WA)プロジェクトを進めている。このプロジェクトは以下の2点を目的としている。 ①ラッサ熱が流行する西アフリカ諸国でのラッサ熱ワクチンの第IIb相、第III相臨床試験の施設整備、②緊急事態においてワクチンやその他の生物学的対策に関する臨床エビデンスを迅速に生成するための地域戦略の開発と推進 このプロジェクトはCEPIの100日ミッション達成に貢献するものであり、CEPIの支援を受けている。プロジェクトには、アフリカCDC、西アフリカ保健機構 (West African Health Organisation: WAHO)、西アフリカ諸国政府および各国の研究機関が協力しており、現地の病院の視察、ワークショップなどが行われている。	その他		●	●			●							リンク	
★		17	2024/12/23	WHO	COVID-19、SARS-CoV-2変異株、TAG-CO-VAC	Statement on the antigen composition of COVID-19 vaccines	WHOのワクチン構成の技術的諮問グループ (TAG-CO-VAC) が1価のJN.1系統変異株を引き続きCOVID-19ワクチン抗原に用いることを推奨	2024年12月10-12日にWHOのワクチン構成の技術的諮問グループ (Technical Advisory Group on COVID-19 Vaccine Composition: TAG-CO-VAC) が再招集された。会議では、SARS-CoV-2の遺伝的変異や抗原変化、感染またはワクチンによる免疫反応、現在承認されているワクチンが流行しているSARS-CoV-2変異株に対して示す性能、およびCOVID-19ワクチン抗原組成への影響などが検討された。その結果、2024年4月に開催されたTAG-CO-VACにおける声明を踏襲し、今後のCOVID-19ワクチンの抗原構成に1価のJN.1系統変異株を含めることが結論づけられた。WHO加盟国は、WHOの予防接種に関する戦略諮問グループ (SAGE) の推奨にもとづきCOVID-19のワクチン接種を継続することが推奨される。	コロナウイルス感染症	●		●									リンク		
		18	2024/12/24	BARDA	COVID-19、ワクチン、T細胞免疫応答、Project NextGen	BARDA Announces Award to Fred Hutch Cancer Center Through Rapid Response Partnership Vehicle to Evaluate T-Cell Immune Responses of Next Generation COVID-19 Vaccines	BARDAが次世代COVID-19ワクチンの開発に向けて、フレッドハッチ癌研究センターによるT細胞免疫応答の評価技術開発に2,380万ドルを助成	BARDAは、Rapid Response Partnership Vehicle (RRPV)を通じて、Project NextGenの資金2380万ドルをフレッドハッチ癌研究センターに助成し、T細胞免疫アッセイの集中研究所として機能させることを発表した。これにより、T細胞の機能に関する新たなバイオマーカーの検査能力が向上し、次世代のCOVID-19ワクチンの先進的な研究開発が促進される。本契約のもと、フレッドハッチ癌研究センターはCOVID-19ワクチンにより誘導されるT細胞の応答を評価するために、ヒト臨床試験サンプルを用いてマルチパラメーターの細胞内染色アッセイ法の検証を行う。	コロナウイルス感染症			●	●	●							リンク		
		19	2024/12/31	NIH, NIAID	高病原性鳥インフルエンザ、H5N1、リスク評価	NIH Officials Assess Threat of H5N1	NIAIDの所長らが高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1のリスクに関する見解を公表し、H5N1の一般市民へのリスクは低く、既存および開発中の治療薬やワクチンは重症化を防ぐのに十分であると評価	NIH傘下のNIAIDのMarrazzo所長とIson医師は、 <i>New England Journal of Medicine</i> に掲載された論説の中で高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1に関して、警戒を強めることと「通常業務」とのバランスを取るべきだと述べた。そして、現在の流行を抑制するために、1)獣医学、公衆衛生、医療、酪農や家禽の飼育従事者など、人間と動物の研究者間の協力体制、2)呼吸不全を発症し救命医療介入されたカナダのH5N1患者を注視すること、3)H5N1やその他のインフルエンザウイルスに対するワクチンや、治療法などの医療対策の開発と検証を継続すること、4)人々による感染防止対策を4つのポイントとして指摘している。	インフルエンザ	●										リンク	リンク		
		20	2025/1/3	NIH, NIAID	マラリア、スポロゾイト、PfCSP、モノクローナル抗体、エピトープ、pGlu-CSP、MAD21-101	NIH researchers discover novel class of anti-malaria antibodies	NIHの研究者がマラリア原虫の従来とは異なるエピトープをターゲットとする新規の抗体を発見し、新たな治療薬開発の可能性を拓く	NIHの研究者は、従来とは異なりマラリア原虫のエピトープをターゲットとする新規の抗体を発見し、 <i>Science</i> 誌に発表した。熱帯熱マラリア原虫の表面には、環状スポロゾイト抗原 (PfCSP)と呼ばれるタンパク質が存在する。現在までにヒトで試験された抗マラリア抗体のうち、最も有望なものは、このPfCSPに結合する。今回、NIAIDの研究者を中心とする研究チームは、スポロゾイト表面の新しい部位 (pGlu-CSPと呼ばれるエピトープ) をターゲットとするモノクローナル抗体 (MAD21-101)を発見した。マウスを用いた実験で、この抗体はマラリア原虫のスポロゾイトを効果的に中和し、マウスのマラリア感染を防御することができた。研究グループは、マラリア予防の今後の戦略に役立つとともに、この病気に対する新たな抗体やワクチン開発を促進する可能性がある、と研究者らは指摘している。	マラリア			●			●					リンク	リンク		